

H26地域政策研究センター地域協働研究（教員提案型・後期）採択課題一覧表 【研究期間：H26年10月～H27年9月】

研究課題名	研究の概要	研究代表者			他の構成メンバー			研究区分	研究スタンス	研究分野	研究フィールド	研究協力者
		所属	職	氏名	所属	職	氏名					
RK-01 1 震災後の釜石市における町内会の変容と課題	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 震災から3年以上が経過し、被災者は仮設住宅から次第に自立再建住宅や災害公営住宅に転居する時期を迎えている。転居に際し、もともと住んでいたコミュニティに戻るケースもあるが、新しい地域に移るケースでは、新たにコミュニティを形成していく必要がある。釜石市では地域コミュニティに関する調査として数回にわたり震災前に市内の全町内会を対象にしたアンケート形式の実態調査を実施してきた。しかし、震災後は調査を行う機会がもてないまま今日にいたっている。町内会の調査結果は学術的にみても貴重であり、震災前後の町内会の実態を把握することは、今後の復興まちづくりや新しいコミュニティ形成にとっても大きな資料となるので、その実施が必要である。 ②実施方法・取組みの概要 市役所が保有する町内会長名簿をもとに、市内の全町内会を対象にしたアンケート形式の実態調査を実施する。調査項目は震災直後の対応と復興への町内会の役割に関する項目を追加し、今日にいたる町内会の活動状況と今後の課題を明らかにする。また重要なインフォーマント（情報提供者）となる町内会長数名への面接調査を実施し、震災後の町内会の実態を正確に把握する。	総合政策学部	教授	吉野英岐	釜石市 釜石市 釜石市	課長 主査 主任	大久保孝信 松井英士 栗澤沙織	震災復興研究	課題解決型研究	暮らし分野	釜石市全域	なし
RK-02 2 看護職や看護学生によるレジリエンスを活用した被災者の長期的健康支援の活動モデルの開発	① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 東日本大震災においては仮設住宅生活が長期化している事を中心として被災者の生活には様々な面で長期的な負担がかかっている。その中で、心身の健康を維持するための健康習慣を維持、回復あるいは確立する事が困難な住民は多数存在しており、特に男性はサポートを受容しづらい特性を持っていることからその支援に向けた効果的な取り組みが必要になる。したがって、特に被災者の性別に焦点を当てて被災地の住民の健康習慣の確立のサポートを課題とする。 ② 実施方法・取組みの概要 研究フィールドの市町村において、仮設住宅住民および被災をした非仮設住宅住民の中から健康習慣の維持、回復あるいは確立してゆく事に困難感を持ちかつより良い健康習慣獲得への希望を持つ被災者を募集し、看護職と看護学生がそれぞれ看護学の知識に加えて、健康心理学的な技法を用いて、被災者自身のレジリエンスを活用した支援を行い、評価する事によりサポートモデルの開発をおこなう。	看護学部	准教授	井上都之	看護学部 看護学部 看護学部 看護学部	講師 助教 助教 准教授	三浦奈都子 及川正広 鈴木美代子 高橋有里	震災復興研究	課題解決型研究	暮らし分野	宮古市 山田町 大槌町	尾無徹(山田町保健師) 高岩奈津美(東北大学大学院、元宮古市保健師) 井田愛美(大槌町保健師) カッキー'sメンバー(看護学部学生) 塚本尚子(上智大学大学院) 石川利江(桜美林大学大学院)
RK-03 3 在住外国人と支援拠点との交流を規定する要因の検討	① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 多文化共生のまちづくりを考える場合、在住外国人への支援は不可欠である。その支援の主な活動拠点は国際交流協会が担っているが、協会とつながっていない外国人の生活実態やニーズ、協会との接点を築けない(築かない)要因を探ることにより、実践的・効果的な支援のあり方を提案することを目指す。 ② 実施方法・取組みの概要 岩手県奥州市在住の外国籍住民および日本人住民を対象に、奥州市国際交流協会との関わりや接点および支援ニーズについて面接あるいは質問紙調査を実施する。	社会福祉学部	准教授	細越久美子	奥州市総務企画部まちづくり推進課 奥州市総務企画部まちづくり推進課 奥州市国際交流協会 奥州市国際交流協会	主任 多文化共生推進員 事務局長 職員	齋藤輝彦 曾頼 渡部千春 藤波大吾	一般課題研究	課題解決型研究	地域社会研究分野	奥州市	奥州市国際交流協会 奥州市まちづくり推進課 奥州市内の地区センター（公民館）
RK-04 4 史跡公園「湯舟沢環状列石」の親子参加による植生景観修復と博物館体験の分析	① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 県史跡「湯舟沢環状列石」において減少傾向にある「子ども」と「成人」の入館者数を回復させるだけでなく、各入館者の「博物館体験」を深め、それを質的に分析し、評価基準を設けることを第一の課題とする。また、世界遺産暫定候補に関連して重要性が高いにもかかわらず、湯舟沢環状列石の認知度が低い状況を、史跡の植生景観を修復しながら改善し、さらに市となった滝沢市や県の地域ブランドを高めることを第二の課題とする。 ② 実施方法・取組みの概要 一般に博物館に興味をもつ人物は、子ども時代に博物館好きの親に連れられて訪れた経験を持っている。そこで、今回は「親子」を単位として分析をおこなう。内容に連続性がある一年間のワークショップを実施しながら、全回通して参加する親子入館者の博物館体験について、詳細なインタビューを繰り返しおこなって分析する。体験の本質と記憶を引き出すために、親子が参加する植生景観調査、採種と移植・修景、ツアーによる景観ウォッチング、ジオラマ作成などを企画し、景観と史跡への知識と関心を深める内容で構成する。	総合政策学部	教授	平塚明	滝沢市埋蔵文化財センター	主査	桐生正一	一般課題研究	課題解決型研究	地域社会研究分野	滝沢市および岩手県	なし